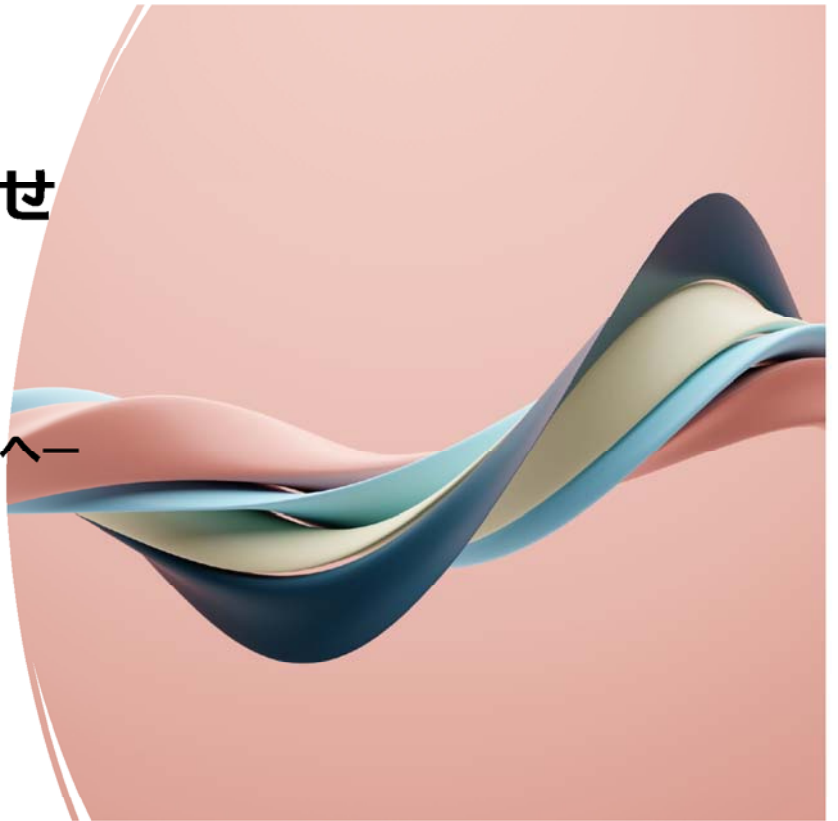


「ちいさなしあわせ を重ねる社会」 をつくる

—誰もがwell-beingな社会へ—

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)



市民後見人による新しい社会づくり



市民後見文化の普及



市民後見人



地域コミュニティ後見実装プロジェクト



コミュニティ意思決定支援プロジェクト

成年後見「3つの基本理念」

- * 自己決定の尊重
- * 残存能力の活用
- * ノーマライゼーション

1. 何が問われているのか

Well-being (ウェル・ビーイング) :

よりよく生きる? (positive)

よりよくいる? (存在)

よく在る? (状態)

そう在るようにして在る (常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)
そう在るように受け入れあう



「ふるさと」をどうつくるのか

コロナ禍で起こった「恩送り」

地域の高齢者を心配して布マスクを縫って届けた中学生たち

校区の子どもたちのために布マスクを縫って配付した高齢者住民たち

⇔互いに相手を慮って、うれしかった！！

2. 転換点の社会

世界的課題・社会の構造的変化

根源的危機の時代：

内在的危機が外在的危機を招き寄せ、増幅し、加速する

これを人々の日常生活で引き受けざるを得ない

⇒地域社会でどう受け止めるのか

コミュニティと自立が課題化

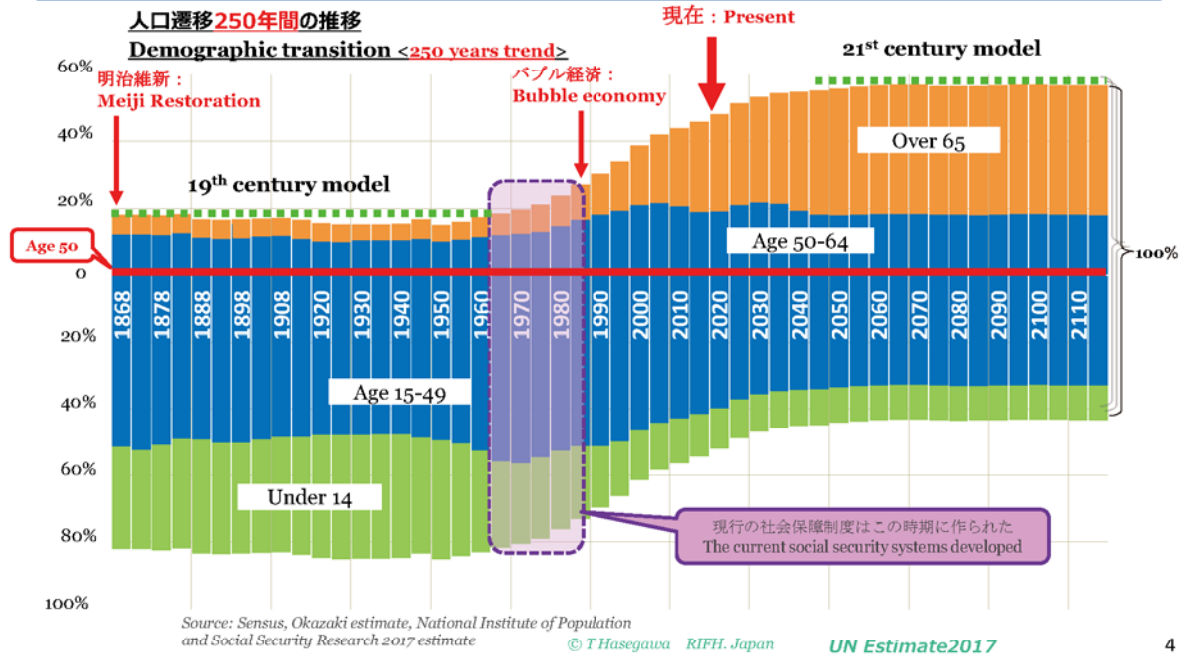
根源的危機の時代は、大きな転換点

このような時代にこそ、足下の「生活」「地域社会」を見つめる必要

3. 人生100年時代の到来

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



少子高齢人口減少社会
から
人生100年社会へ

高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる

4. 人は何が大切なのか／ふるさととは何なのか

当事者性・プライドが
ものをいう

つながり



当事者性

プライド

自己有用感



問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

(幸せを感じられる状態にある)



問題が起こらない社会

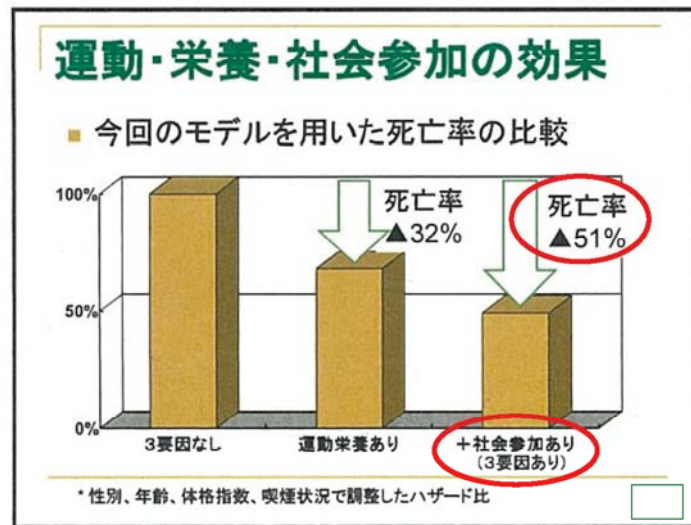
サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力

「ふるさと」とは
「人」と「人」とのかかわり
自分が大切にされ、いてもよいと思えるかかわり

5. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

17

「かかわり」が子どもを含めた人々の在り方を決める

6. 当事者になるということ

(1) 「学び」と「人づくり」を一つなりに

： 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、卒業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりがづくり、活動づくりのきっかけへ



公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム



【北仙道地区】
陽光会



【豊川地区】
とよかわっしょい



【匹見3地区】
匹中会

(2) 少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



以下、鈴木辰吉氏提供スライド/2022.9.17ソーシャルイノベーター研修自給家族.pdf

「自給家族」は自治の営み

生産者と消費者が一つに
なって農村と食を守る

「自給家族」は、土地に根差した食と農の営み。農の営みが続く限り集落は存続し、家族に安全な食の確保が保証されるシステム。

迎える「少数化社会」の山村は、開かれた共同体中心の社会（Open Common「関係人口」と共につくる新しいコミュニティ）によってのみ存続できる。

「自給家族」は押井の里の登録商標です



(3) 都市部の空き家を開放する

「住み開き」：

自分の空間をちょっと開いて、公共空間にする

(財)世田谷トラストまちづくり：

「地域共生のいえ」

岡さんのいえTOMO



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



(4) アートを重ねて、まちを彩る
(沖縄県那覇市若狭公民館)





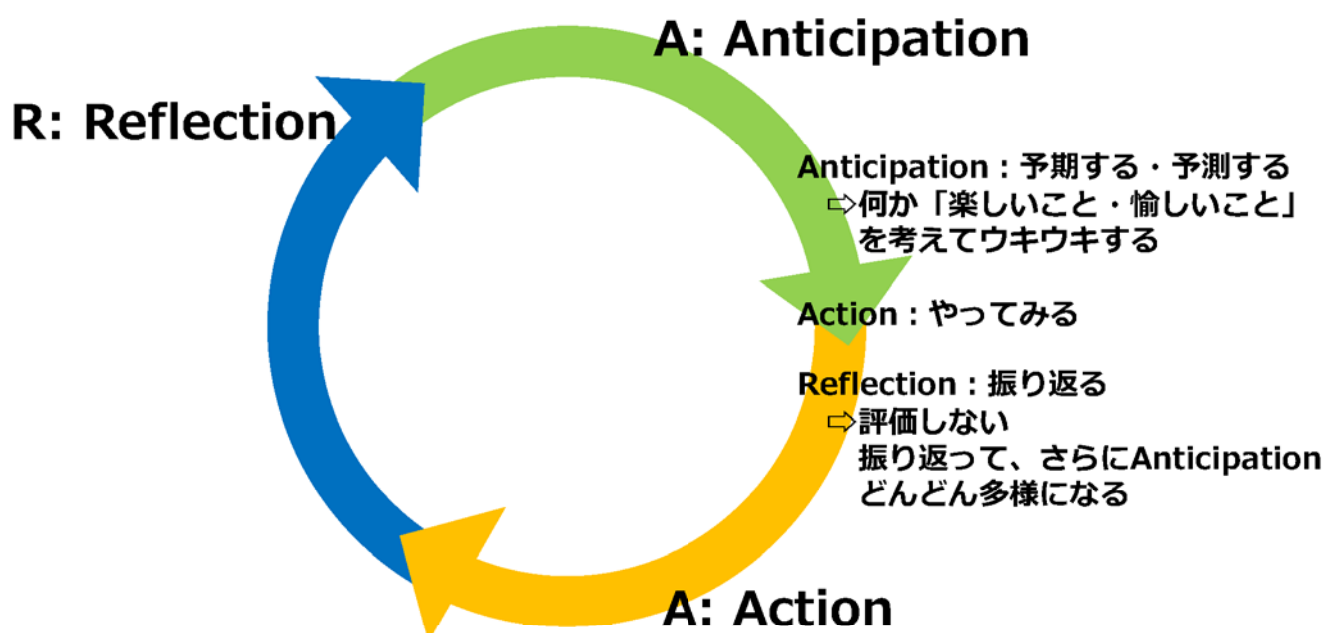
**地域主体で
活動継続**



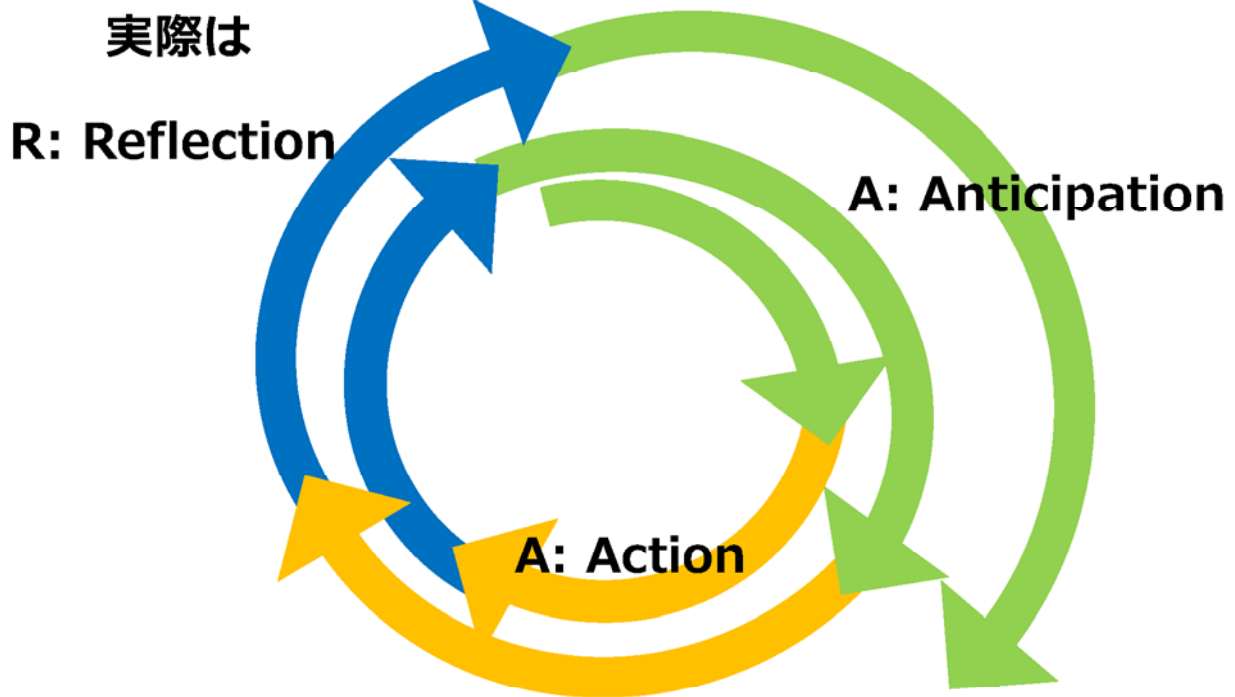
コロナ禍における屋外での地域交流企画として月に一回開催



7. FOR ALLの上にBY ALLへ



参考 : OECD Education 2030

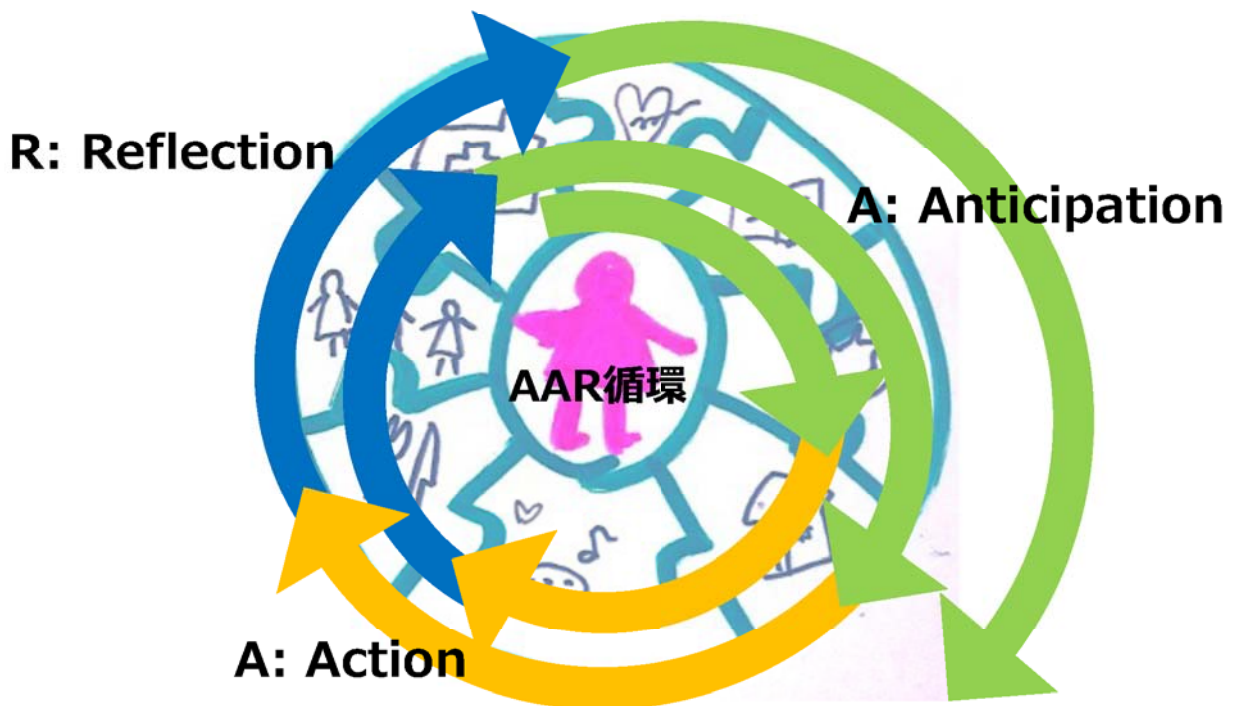


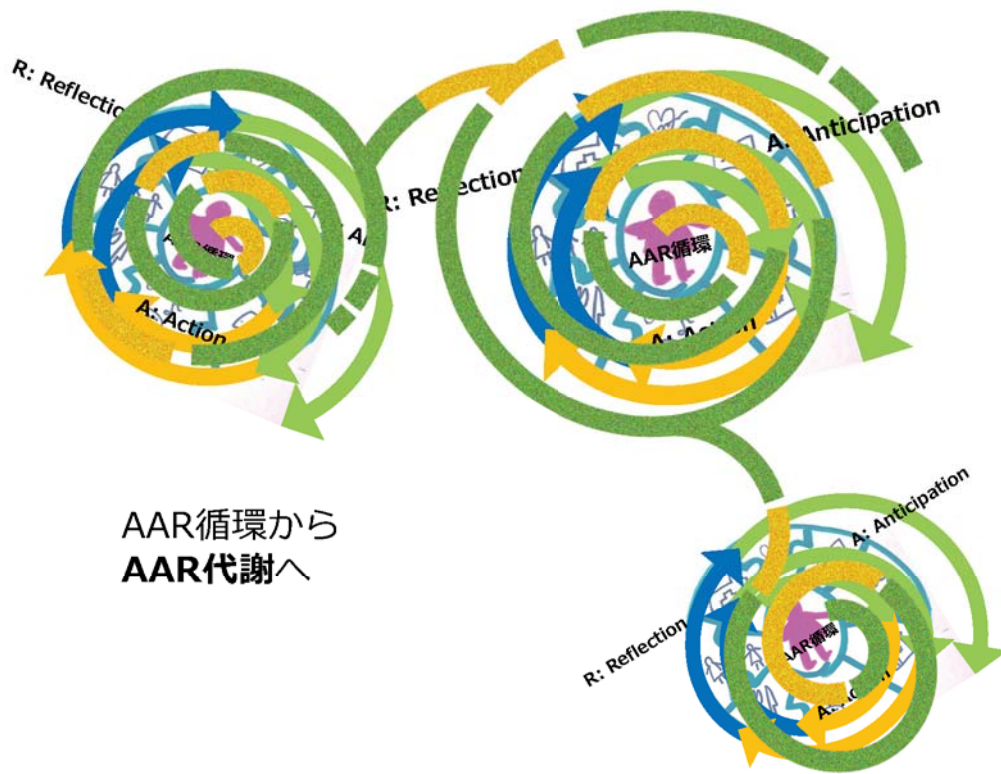
全員が当事者になる

自分を尊重してもらえ
相手を尊重している

信頼感と想像力

8. 「はまる」と、「育つ」





AAR循環から
AAR代謝へ

9. 「ちいさなしあわせを重ね合う」社会 誰もがwell-beingなまちをつくる

ちいさなしあわせ = 「在る」ことを重ね合う社会へ

Well-beingな社会とは
誰もがそう在るように在ることができ
そう在ることで変化を引き出しあい
新しい自分で在り続けることができる社会

そのために
みんなが、みんなで、みんなのしあわせをつくる
〈社会〉の基盤としての市民後見へ

10. Be-ing であることで Do-er になる

人と人との間にきちんと位置づけられる : Be-ing

人のために「よきこと」をしないではいられなくなる : Do-er

⇐ジグソーパズル型AAR代謝

巻き込みあうことで、共創する

「よきこと」をつなげる〈社会〉へ